

堺高校のあり方

【学校改革の実施計画】

令和8年5月1日
堺市教育委員会事務局

堺市立堺高等学校（以下、「堺高校」という）は、堺市立工業高校・堺市立商業高校・堺市立第二工業高校・堺市立第二商業高校の4校が統合し、平成20年に開校した専門高校です。創立以来、理数・工業・商業分野で堺の産業を支える多くの人材を育成してきました。また、第3期未来をつくる堺教育プランを踏まえ、専門教育やICT活用、地域連携を通じて主体的に学ぶ力の育成に努めてきました。

一方で、将来の予測が困難な時代にあり、人口減少や技術革新の進展、DXの加速など、教育を取り巻く環境は急速に変化しています。また、中学校卒業生数の減少に伴い、堺高校を含む府内の公立高校では志願者数は年々減少しており、将来的には、学校や学級規模縮小が見込まれています。

こうした状況を踏まえ、令和5年に教育委員会事務局職員と堺高校管理職で構成する「堺高校のあり方検討ワーキングチーム」を立ち上げ、教職員からの意見も踏まえながら、堺高校の今後のあり方について検討を進めてきました。

さらに大阪府では、令和7年3月に府立高校改革グランドデザインが公表され、同年7月に令和10年度入学生を対象とした大阪府公立高校入試制度を大きく改革することが発表されました。

これらの動向を踏まえ、堺高校の教育内容や学校のあり方を改めて見直し、社会や地域の変化に対応した学科構成や教育内容の再編を進めていくことが求められています。

本資料は、堺高校が、新たな価値を創出し、地域産業・社会に貢献する人材を育成し、学びのニーズに応えることで「真に選ばれる高校」へと進化するための方向性を示すものです。

今後とも堺高校に対して一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年5月1日

1. 趣旨	1
2. 社会の動向と堺高校の現状	2
3. 学校改革をめざす高校	3
4. スクールミッションとめざす生徒像	4
5. 学校改革のコンセプト	5
6. 学科再編	6
7. 専門人材の育成×カリキュラムの充実（全日制の課程）	8
8. カリキュラムの充実×学びのセーフティネット（定時制の課程）	12
9. 今後の予定	15
10. 参考資料	16

1. 趣旨

■ 趣旨

社会や学校を取り巻く環境の変化や公立高校志願者数の減少を踏まえ、堺高校の教育内容や校内体制の見直しを進める必要がある。そのため、本市では、令和5年度から検討を行い、令和7年3月に「堺高校のあり方について【学校改革の方向性】」を策定し、社会の動向や学校の課題を整理した上で、めざす高校像や改革のコンセプトを示した。

本実施計画は、堺高校の改革を具体的に進めるための当面の方向性をとりまとめたものである。

社会・学校を取り巻く環境

- 少子化
- 社会・産業構造の変化
- DXの進展
- グローバル化
- 公立高校志願者数の減少



堺高校のあり方を検討

- 令和5年～
堺高校のあり方検討
ワーキングチームで堺
高校の今後のあり方
について検討



改革の方向性を策定

- 令和7年3月
「堺高校のあり方
【学校改革の方向性】」
策定



堺高校のあり方【学校改革の実施計画】策定

2.社会の動向と堺高校の現状

■ 社会の動向

<少子化>

- ▶ 15歳人口の減少 (文科省資料)
約108万人 (令和5年) → 約74万人 (令和20年)
- ▶ 大阪府内公立中学校卒業生数の減少
約7万5千人 (平成28年) → 約6万7千人 (令和6年)
→ 学級数の適正化及び学科再編が必要



参考資料 p16~18

<社会・産業構造の変化>

- ▶ AI、デジタル技術の進展
- ▶ ICT・DX分野における技術系人材不足
- ▶ グローバル化の進行
→ 専門分野の知識と情報活用能力が必要



<生徒・学びの多様化>

- ▶ 高校における不登校生徒 約6万9千人
- ▶ 不登校や中途退学などの課題
- ▶ 通信制高校の増加など、学び方の変化
→ 多様な生徒や学びに対応する教育支援が必要



参考資料 p23,24

<国の動向>

- ▶ 各高校の特色化、魅力化の推進
- ▶ 高校教育改革に関する基本方針 (グランドデザイン) 策定 (令和8年2月)
→ 高校の魅力化・特色化の推進



参考資料 p25

■ 堺高校の現状

生徒・学び

- ▶ 学科の特徴・学習内容の認知度の低さ
- ▶ 入学する生徒の多様化・学びの多様化
- ▶ 探究・ICT・学科横断的な学びの充実が必要

体制・外部連携

- ▶ 魅力を発信する媒体は一定程度、整備されている
- ▶ 学科横断的な学びを実現する校内体制が必要
- ▶ 各学科ごとに、大学・企業・地域等との連携を行っている

3.学校改革でめざす高校

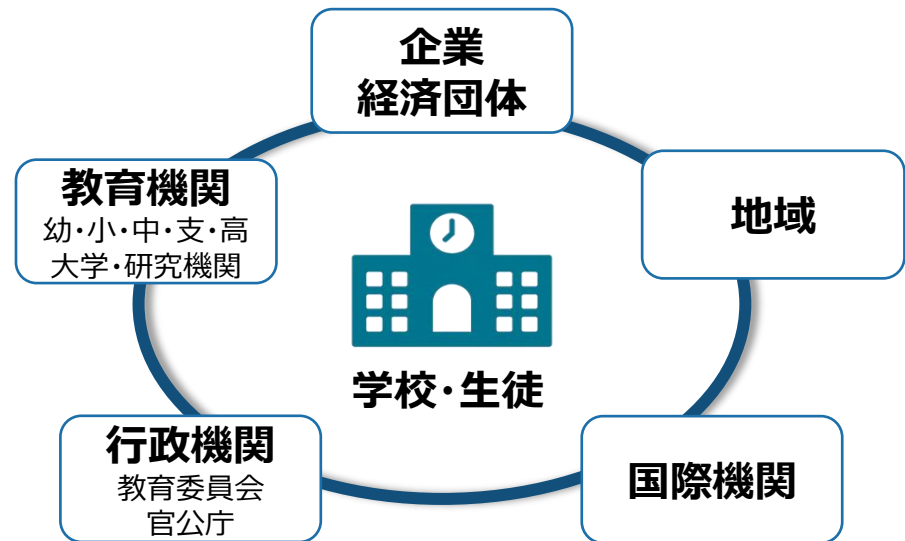
■ めざす高校

学びのニーズに応え、**真に選ばれる**高校
次代を切り拓く**専門人材を育成**する高校
地域産業・社会に貢献する高校

■ 堺高校の意義

- 商業と工業の専門教育を担う高校
- 地域産業と連携した実践的な教育活動
- 本市の施策（事業）について直接関与できる優位性の活用
- 学びのセーフティネットの役割

■ 外部との連携



4. スクールミッションとめざす生徒像

■ スクールミッション

産業分野に特化した専門教育を担う高等学校として、夢と自尊心をもち、堺の伝統と文化を継承させながら、普遍的な知識と汎用的技能を総合的に身につけ、時代の変化に合わせて積極的に社会に参画し、論理的思考力と倫理観をもって新しい社会を創造していく資質を有する人材を育成

■ めざす生徒像

全日制の課程

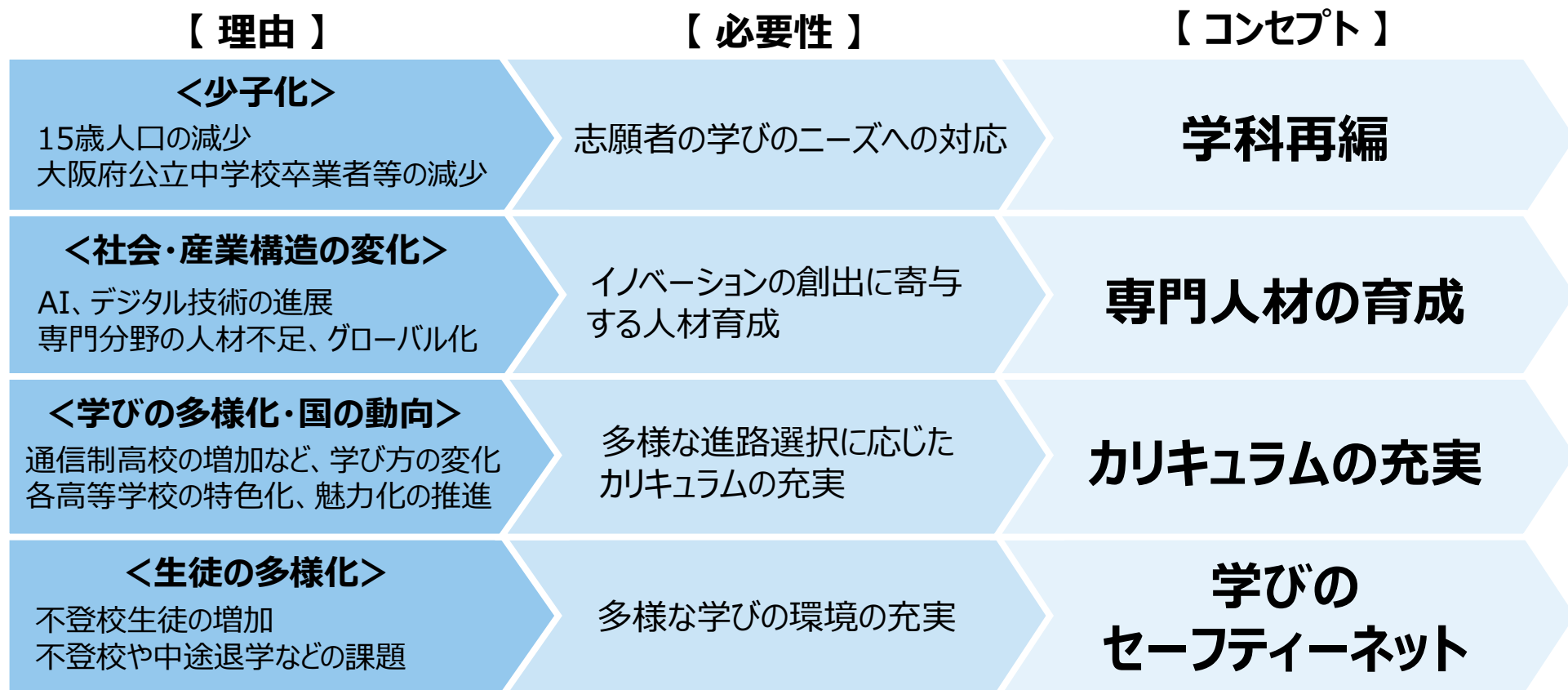
- 実践的な専門性を身につけ、地域の産業基盤を支え、日本や世界の持続可能な発展に貢献できる生徒
- 学校での活動、地域や国際交流等に積極的に参加し、それら多様な体験を礎とした柔軟な思考力と想像力を有する生徒
- 広い視野をもち、多様な文化や価値観を尊重しながら他者と協働し、かつ主体的に学ぶ姿勢と意志をもち続ける生徒

定時制の課程

- 学び直しや再チャレンジに前向きに取り組み、自らの成長を続けようとする生徒
- 他者と協力しながら社会の課題に関心をもち、よりよい社会の形成に貢献しようとする生徒
- 実生活や職業に役立つ知識や技術を身につけ、倫理観をもってそれらを活かそうとする生徒
- 自分の心と体を大切にし、社会の一員として自立した生活をめざす生徒

5. 学校改革のコンセプト

■ コンセプト



社会の動向や堺高校の課題・検討事項を踏まえ、
4つのコンセプトに重点をおき、改革を進める

6. 学科再編

— 令和10年度実施予定 —

■ 学科再編

- ▶ 次代を切り拓く専門人材を育成することで地域産業・社会に貢献する真に選ばれる高校をめざす。
- ▶ 志願者数の減少等を踏まえ、サイエンス創造科（全日制）とマネジメント創造科（定時制）の募集停止をする。
- ▶ 教育課程の内容を明確にするために学科名を変更し、生徒の多様化に伴い、英語表記を追加する。

■ 全日制の課程

現学科	新学科
サイエンス創造科	募集停止
機械材料創造科	機械工学科（MEC） Mechanical Engineering Course
建築インテリア創造科	建築インテリア科（AIC） Architecture and Interior Design Course
マネジメント創造科	ビジネス情報科（BIC） Business Information Systems Course

【方向性】

- 教育課程を学科名に反映
- 特色ある探究活動の成果を継承
- 1学年5学級程度に編制

■ 定時制の課程

現学科	新学科
機械自動車創造科	機械工学科（MEC） Mechanical Engineering Course
建築創造科	建築インテリア科（AIC） Architecture and Interior Design Course
マネジメント創造科	募集停止

【方向性】

- 自動車コースの学びを継承
- 全日制の課程と設備共有
- 1学年1学級程度に編制

6. 学科再編

— 令和10年度実施予定 —

■ 学科名

堺高校の課題を踏まえ、専門分野の学びを明確にし、多様化する生徒にとって見て分かりやすい学科名（日本語・英語）に変更する。

また、全日制の課程と定時制の課程の学科名を統一にすることで、堺高校の教育の質や特色が一体的に認知され、ブランド力の向上を図る。

課程	日本語	英語	略語	学科の内容
全日制	機械工学科	Mechanical Engineering Course	MEC	機械工学や材料工学を基盤に、ものづくりの実践的な知識・技能及び情報技術について学ぶ。
	建築インテリア科	Architecture and Interior Design Course	AIC	より実践的かつ創造的な力を育み、住環境や空間デザインに関する知識・技術と、デザイン的な視点を身につける。
	ビジネス情報科	Business Information Systems Course	BIC	流通・販売・経営等のビジネスのしくみとデータ分析等の情報技術に関することを学ぶ。
定時制	機械工学科	Mechanical Engineering Course	MEC	現行の自動車コースの学びを継承し、機械分野の専門性を高める。
	建築インテリア科	Architecture and Interior Design Course	AIC	建築とインテリア分野の専門的な知識・技能を習得、デザイン思考を育成する。

7. 専門人材の育成×カリキュラムの充実

■ 社会の変化

DXの進展

- ▶ AI、データ活用の拡大
- ▶ ICT、DXの普及



産業構造の変化

- ▶ 高度専門人材の需要の増大
- ▶ 新しい技術・価値の創出



グローバル化

- ▶ 多様な価値観との協働
- ▶ 国際的な視野



■ 社会で求められる力



専門性



情報活用能力



課題発見・
解決力



デザイン思考
創造力



協働力

社会の変化に対応した人材育成の必要性

■ 方向性

専門教育を基盤にした学びを推進し、イノベーションの創出に寄与する人材を育成

専門知識・技能の習得 ・ 学科横断的な探究活動 ・ 情報に関する学びの充実 ・ 国際理解教育

7. 専門人材の育成×カリキュラムの充実

■ 育成する力

専門 × 情報 × デザイン思考

専門知識や技能を基盤に、情報活用能力とデザイン思考を融合し、創造力を育む
イノベーションの創出に寄与する人材を育成

■ 専門学科の学び

専門知識・技能の育成

機械工学科 (MEC)

Mechanical Engineering Course

- ▶ 機械工学、材料工学を中心としたものづくり
- ▶ CAD、3D造形
- ▶ 材料試験・分析、プログラミング等



建築インテリア科 (AIC)

Architecture and Interior Design Course

- ▶ 住環境、デザインを中心としたものづくり
- ▶ CAD/CAM、データ分析、グラフィックソフト等



ビジネス情報科 (BIC)

Business Information Systems Course

- ▶ 流通、販売、経営等のビジネス分野の学習
- ▶ マーケティングや商品開発等、ビジネス分野における生成AI活用



■ 多様な選択科目

進路に応じた学び：専門深化型・進学特化型・総合選択型

■ 全学科共通の学び

総合的な人間力の育成

● 学科横断的プロジェクト学習 【堺高校版STEAM教育】

- ▶ 学科の枠を越えた探究活動の実践
- ▶ 堺の伝統と文化を活かした教育活動
- ▶ アントレプレナーシップ教育*の実践

● 情報技術をベースにした学び

- ▶ 情報に関する科目の開設
- ▶ 情報活用能力の育成
- ▶ 生成AIやデータサイエンス等を活用した先進的な取組の実践

● 国際理解教育

- ▶ 選択科目の充実
- ▶ 国際交流や異文化の体験
- ▶ 各教科で国際理解の視野を取り入れた学習の実践

7. 専門人材の育成×カリキュラムの充実 (多様な選択科目)

■ 多様な選択科目

多様な生徒の学びのニーズに応えるため、
すべての生徒の進路や学びの目的に応じた**柔軟なカリキュラムを実現**

専門深化型

工業や商業の専門科目を中心に学び、専門性をさらに高めるタイプ。例えば、機械工学科の生徒が高度な機械設計やロボット制御を深く学ぶ、ビジネス情報科の生徒がマーケティングやプログラミングを強化するという学び方が可能。

進学特化型

大学や専門学校への進学をめざし、普通科目や探究活動を重視するタイプ。数学・英語・国語等の基礎学力を強化し、進学に必要な学びを確保。

総合選択型

普通科目に加えて、工業や商業の専門科目を自由に組み合わせ、幅広い学びを実現するタイプ。生徒の興味・関心に応じて選択が可能。

自分らしい学びを設計可能・キャリア形成に直結

7. 専門人材の育成×カリキュラムの充実 (全学科共通の学び)

■ 全学科共通の学び

社会の動向を踏まえ、「学科横断的プロジェクト学習」「情報技術をベースにした学び」「国際理解教育」の3つの柱を中心に、全学科共通の学びを推進する。また、学科横断的な学びを通じて、未来社会に必要なスキルを身につけ、総合的な人間力の育成を図る。主体的な学びを支援し、進路の可能性を広げる。

項目	学科横断的プロジェクト学習 【堺高校版STEAM教育】	情報技術をベース にした学び	国際理解教育
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> 各学科ごとの学びに加え、学科横断的な学びも実施 ICTの活用・生徒用個人端末の活用 教育活動についての情報発信 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> 1年次：探究の基礎を学習、プロジェクト学習 2年次：研究テーマごとのグループで探究活動 3年次：「課題研究」において探究活動 課題発見力や解決力の育成 堺の伝統と文化を活かした教育活動 キャリア教育 アントレプレナーシップ教育 	<ul style="list-style-type: none"> 情報に関する科目の開設 基礎的なICTの活用 生成AI等を活用した先進的な取組 オンライン授業 他校や外部との交流 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力の育成 言語活動の充実、選択科目の開設 豊かな国際感覚の醸成 国際交流や異文化の体験 等 国際理解の視点を踏まえた教育実践 生徒主体の活動
外部連携	<p style="text-align: center;">地域・企業・大学・行政等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> PLIJ（学びのイノベーションプラットフォーム）に加入 産業支援機関等と連携 海外姉妹・友好都市等との交流 短期海外研修 		
校内体制	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間」担当を中心とした授業・教材研究 教員研修（研修主任・総探担当を中心に企画・運営） 	<ul style="list-style-type: none"> 情報関連研修（研修主任や情報担当を中心に企画・運営） ICTを活用した授業・教材研究 	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流委員会（国際理解教育担当を中心に活動） 教員研修（研修主任・人権教育主任を中心に企画・運営）

8. カリキュラムの充実×学びのセーフティネット

■ 社会の変化

生徒の多様化

- ▶ 学び直しを必要とする生徒
- ▶ 多様な学びのニーズ



社会的自立の重要性

- ▶ 多様な社会で自立して生きる力
- ▶ 就労に必要な基礎的能力



DXの進展

- ▶ AI、データ活用の拡大
- ▶ ICT・DXの普及



■ 社会で求められる力



専門性



情報活用能力



自己理解力
自己調整力



デザイン思考
創造力



協働力

多様な背景に対応した人材育成の必要性

■ 社会の変化

専門教育を基盤にした学びを推進し、自尊感情を高め、自己実現をめざす人材を育成

専門知識・技能の習得・キャリア教育・ソーシャルスキルトレーニング・サポート体制の充実

8. カリキュラムの充実×学びのセーフティネット

■ 育成する力

専門 × 協働 × デザイン思考

専門性を高めながら、自分らしく学び、
仲間と協働し、デザイン思考を取り入れ、未来につながる力を育成

■ 専門学科の学び

専門知識・技能の育成

機械工学科 (MEC)

Mechanical Engineering Course

- ▶ 機械工学、自動車工学を中心としたものづくり
- ▶ CAD、基礎加工、自動車の仕組み等



建築インテリア科 (AIC)

Architecture and Interior Design Course

- ▶ 住環境、デザインを中心としたものづくり
- ▶ CAD/CAM、データ分析、グラフィックソフト等



■ 全学科共通の学び

総合的な人間力の育成

● キャリア教育

- ▶ デザイン思考を活用した進路設計（ライフデザイン力）
- ▶ 堺の伝統産業を活用した教育活動
- ▶ 進学、就職に対応したカリキュラム
- ▶ 生成AI等を活用したキャリア教育の実践

● ソーシャルスキルトレーニング

- ▶ 自己肯定感、自己・他者理解力の育成
- ▶ 対話力、協働力の育成
- ▶ 課題解決力の育成
- ▶ 社会で主体的に行動する力の育成
- ▶ 自己表現力の育成

■ 充実したサポート体制

- ▶ 学校の風土の見える化による安心して学べる環境整備
- ▶ それぞれの生徒の状況に応じたきめ細かな支援
- ▶ ICTを活用した心身の状況の把握

8.カリキュラムの充実×学びのセーフティネット (全学科共通の学び)

■ 全学科共通の学び

社会の動向を踏まえ、専門分野の学びだけでなく、「キャリア教育」「ソーシャルスキルトレーニング」を中心に全学科共通の学びを行う。また、すべての生徒の自己実現、自尊感情を高めることを重視し、興味・関心に応じた学びの自立化を促し、総合的な人間力の育成を図る。

項目	キャリア教育	ソーシャルスキルトレーニング
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 個別最適な支援の充実 ▶ ICTの活用（生成AI等） ▶ 教育活動についての情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ICTを活用した心身の状況の把握 ▶ 学年合同プログラムの実施
内容	<ul style="list-style-type: none"> ▶ デザイン思考を活用した進路設計（ライフデザインカ） ▶ 堺の伝統産業を活用した教育活動 ▶ 進学、就職に対応したカリキュラム ▶ 生成AI等を活用したキャリア教育の実践 ▶ 学校生活の適応 ▶ 体調管理・生活習慣についての学び 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 体系的なプログラムの実施 ▶ 自己肯定感、自己・他者理解についての取組の実践 ▶ アサーティブな視点の導入 ▶ 自己表現力の育成 ▶ コミュニケーション力の向上
外部連携	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 外部講師による特別授業 ▶ スクールカウンセラー（SC） 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 少人数による協働的な活動の実践 ▶ 個別進路相談会 ▶ 関係機関との連携 ▶ スクールソーシャルワーカー（SSW）
校内体制	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 定期的な生徒との個別面談 ▶ 教員研修（研修主任を中心に企画・運営） 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ チューター制による生徒への支援 ▶ サポートルームでの個別支援

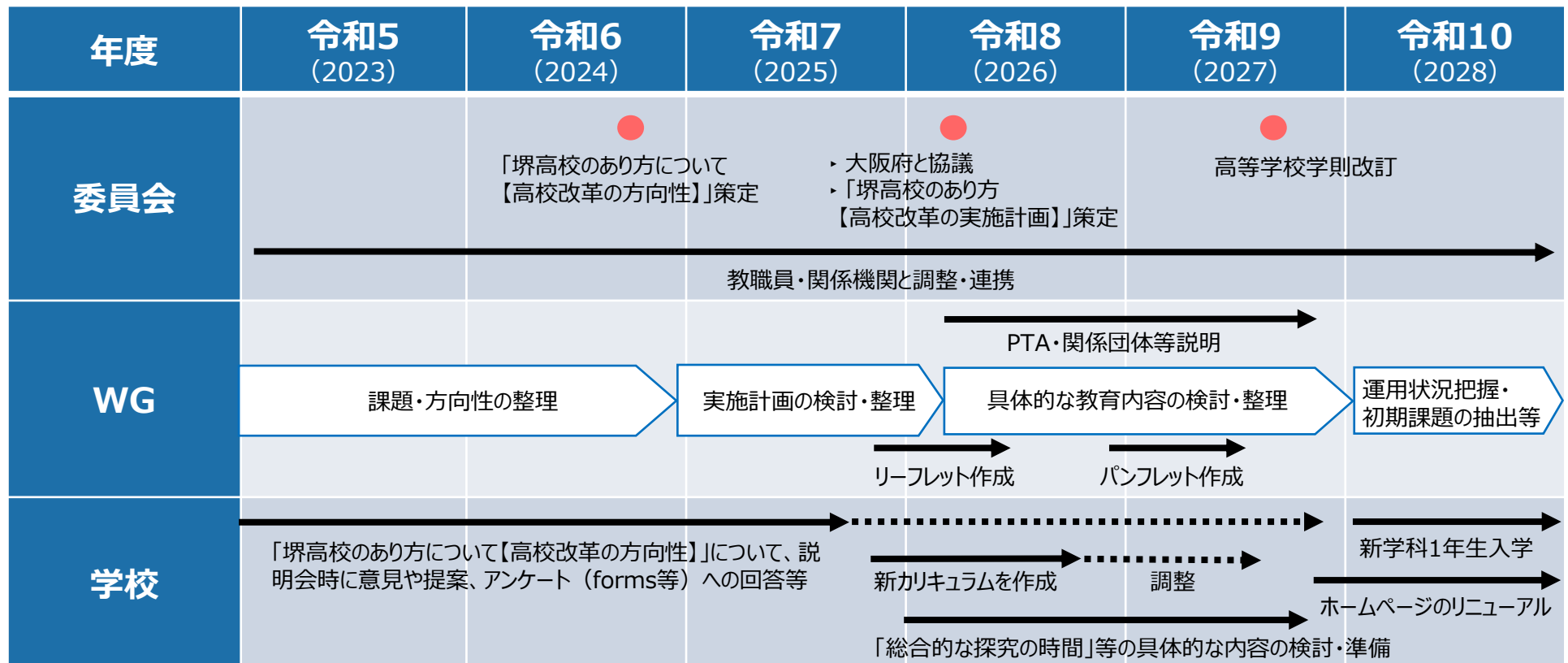
9. 今後の予定

■ 学校改革の推進体制

令和5年度、選ばれる魅力的な学校の実現に向けて、ワーキンググループ（WG）を設置し、課題の共有、堺の企業家や学識経験者へのヒアリング等を実施し、課題・検討事項等を整理した。

令和7年度、「カリキュラム」検討チーム・「総合的な探究の時間」検討チームを立ち上げ、学校改革の方向性を踏まえ、カリキュラムや具体的な教育内容を検討した。

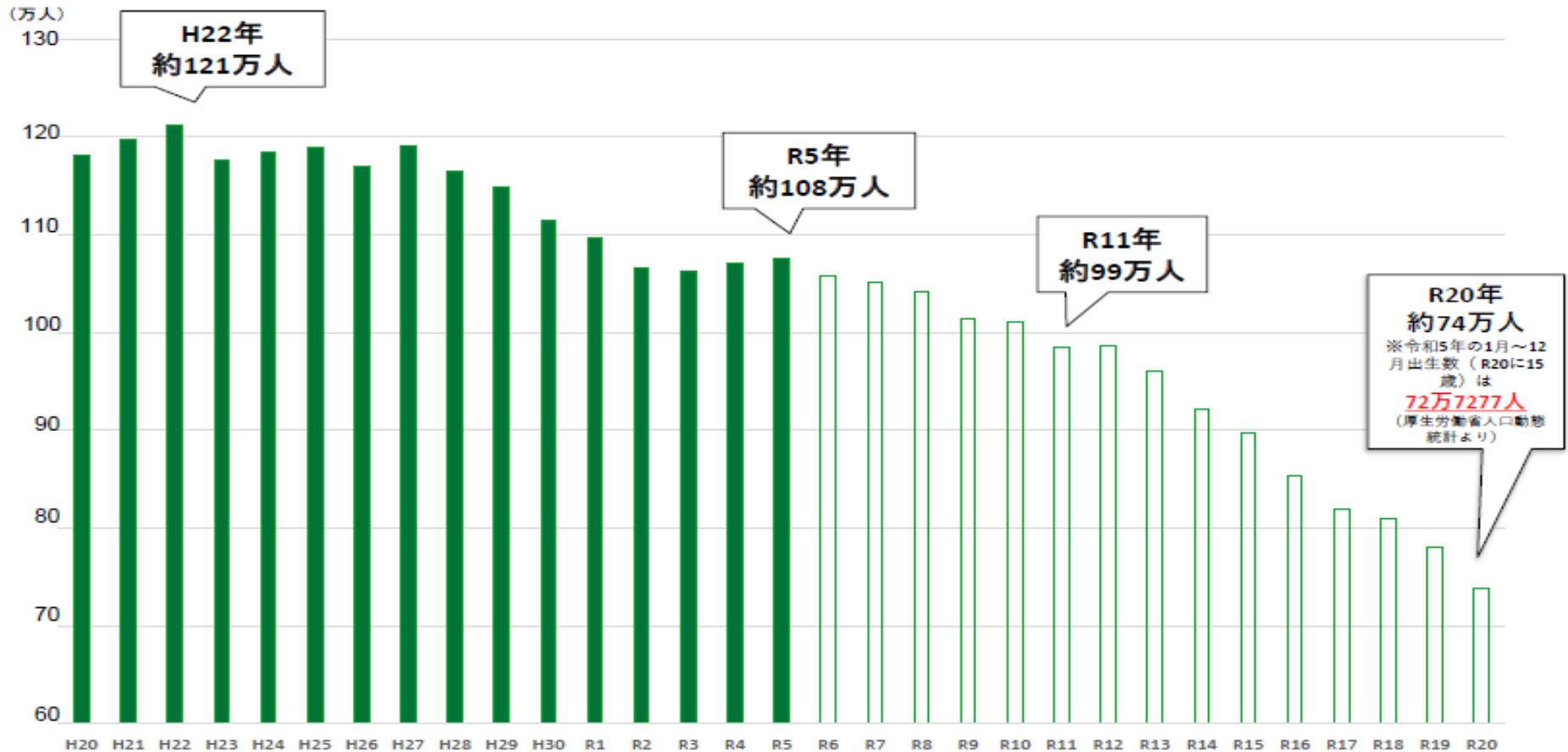
令和8年度以降、引き続き、検討事項の整理を進め、学校改革を実現する。



10. 参考資料

■ 全国の15歳人口の推移

○15歳人口は、年々減少傾向。これまでは100万人を超えて推移してきたが、**令和11年には100万人を割り込み、令和20年には約74万人**になることがほぼ確実。令和20年の人口は令和5年と比較して**約31%も減少**する見込み。



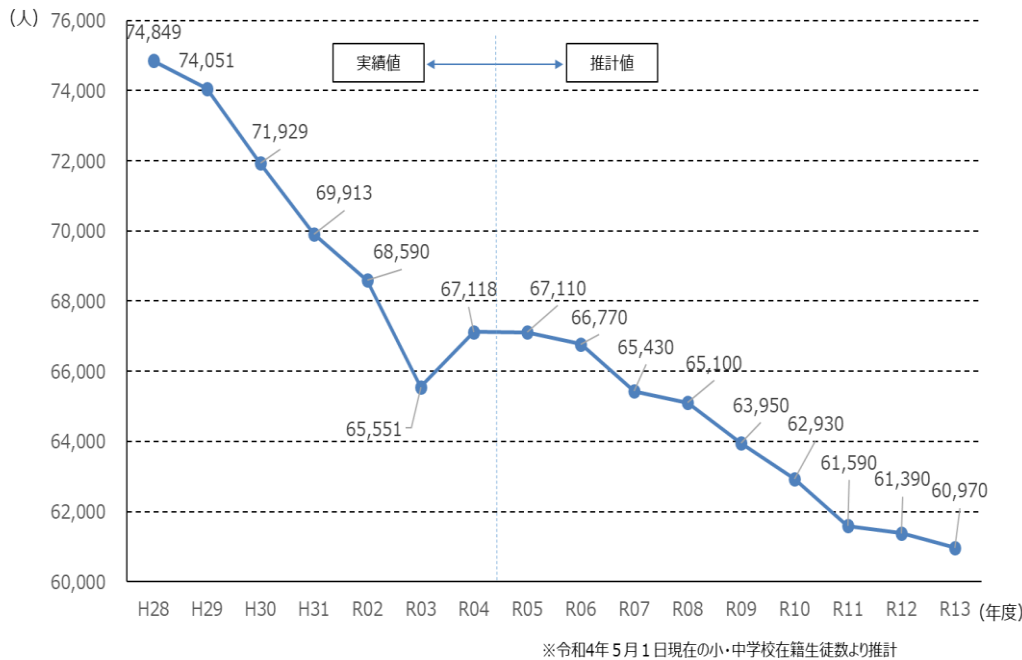
※各年、前年10月～当年9月時点での人口を集計

※H20～R5までは、総務省人口推計の年齢別人口より

※R6～R20までは、総務省人口推計の年齢別人口（R5.10.1時点）令和5年資料より算出

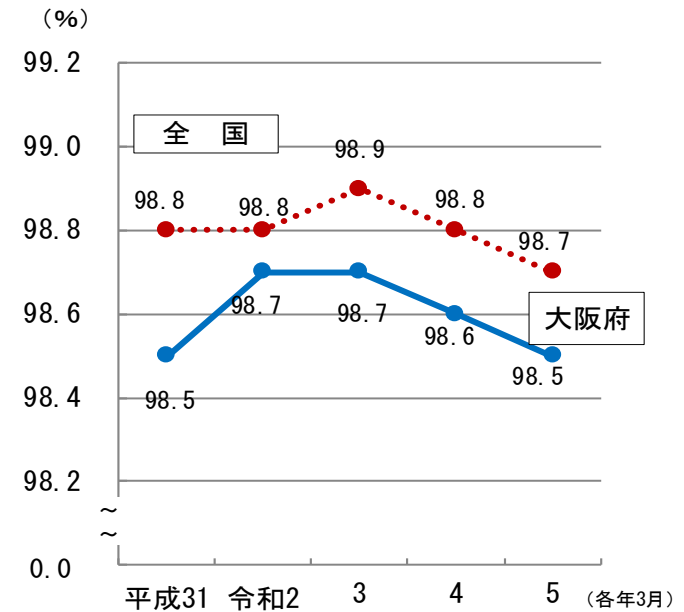
■ 大阪府内中学校卒業後の状況

① 大阪府内公立中学校卒業生数の推移



資料：大阪府学校教育審議会「今後の工業系高等学校のあり方について（答申）（令和4年11月28日）」より抜粋

② 高等学校等進学率の推移（全国・大阪府）



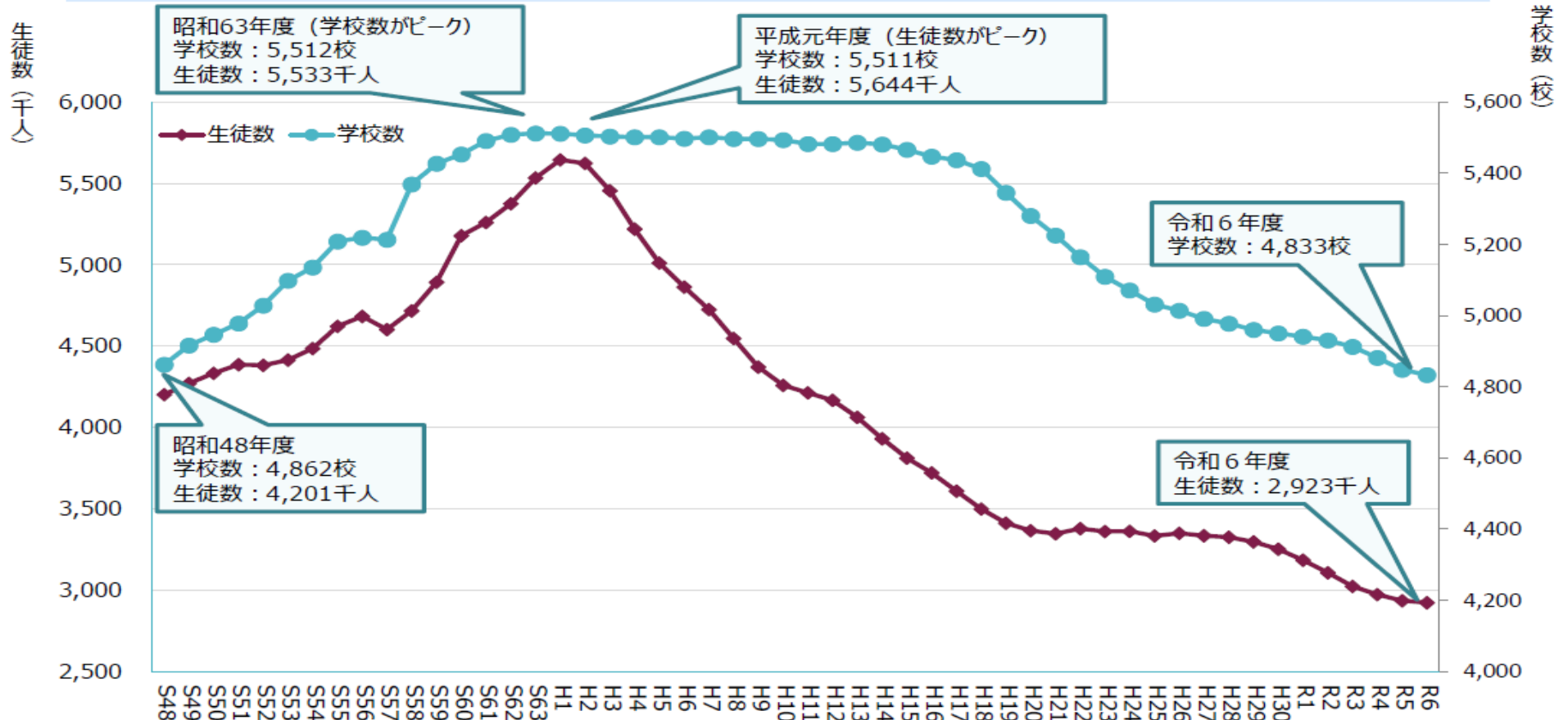
資料：大阪府「令和5年度大阪の学校統計 学校基本統計（学校基本調査報告書）」より抜粋

※調査の実施時期：令和5年5月1日現在（ただし、「卒業後の状況調査」は、前年度間卒業者について調査）

10. 参考資料

■ 全国の全日制・定時制高等学校等の学校数と生徒数の推移

○ 全日制・定時制の高等学校等は、昭和63年度に学校数が最多の5,512校、平成元年度に生徒数が最多の5,644千人に達した。以降、学校数・生徒数ともに減少しており、令和4年度には、生徒数が初めて300万人を下回った。



(※) 学校数は、国立・公立・私立学校（全日制・定時制）、中等教育学校後期課程（H11年度以降）の合計値。

(※) 生徒数は、国立・公立・私立学校（全日制・定時制）、中等教育学校後期課程（H11年度以降）の合計値。（専攻科、別科の生徒数を含む。）

(出典) 文部科学省「学校基本調査」

10. 参考資料

■ 大阪府内の定時制の高等学校一覧（令和8年度）

学科	高等学校名
普通科	大手前高校、桃谷高校、桜塚高校、春日丘高校、寝屋川高校、布施高校、三国丘高校、
総合学科	成城高校、今宮工科高校、西野田工科高校（令和7年度募集停止）、都島工業高校、工芸高校、茨木工科高校、藤井寺工科高校、堺工科高校、和泉総合高校、佐野工科高校
商業科に関する学科	岸和田市立産業高校（商業科）、堺高校（マネジメント創造科）
工業科に関する学科	堺高校（機械材料創造科・建築インテリア創造科）

10. 参考資料

■ 堺高校過去7年の一般入学者選抜における第一志望の志願者数（競争率）

課程	学科／入学年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
全日 制	全体 志願者数/定員 (競争率)	233/240人 (0.97倍)	223/240人 (0.93倍)	217/240人 (0.90倍)	228/240人 (0.95倍)	216/240人 (0.90倍)	237/240人 (0.99倍)	201/240人 (0.84倍)
	サイエンス創造科	24/40人	29/40人	27/40人	35/40人	22/40人	27/40人	19/40人
	機械材料創造科	70/80人	68/80人	72/80人	60/80人	75/80人	71/80人	76/80人
	建築インテリア創造科	61/40人	57/40人	49/40人	49/40人	44/40人	48/40人	39/40人
	マネジメント創造科	78/80人	69/80人	69/80人	84/80人	75/80人	91/80人	67/80人
定時 制	全体 志願者数/定員 (競争率)	35/120人 (0.29倍)	16/120人 (0.13倍)	16/70人 (0.23倍)	20/70人 (0.29倍)	26/70人 (0.37倍)	12/70人 (0.17倍)	19/70人 (0.27倍)
	機械自動車創造科・建築創造科	24/80人	10/80人	14/35人	17/35人	13/35人	7/35人	13/35人
	マネジメント創造科	11/40人	6/40人	2/35人	3/35人	13/35人	5/35人	6/35人

資料：堺市調べ

10. 参考資料

■ 堺高校全日制入学者数（推計）

項目 単位（人）	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
大阪府内公立中学校卒業生数 ※推計値	65,580	65,060	64,160	63,070	61,670	61,440	61,100	59,200
増減（令和6年度数との比較）	—	▲ 520	▲ 1,420	▲ 2,510	▲ 3,910	▲ 4,140	▲ 4,480	▲ 6,380
堺市中学校卒業生数 ※推計値	6,480	6,300	6,080	6,020	5,700	5,750	5,630	5,530
増減（令和6年度数との比較）	—	▲ 180	▲ 400	▲ 460	▲ 780	▲ 730	▲ 850	▲ 950
大阪府内公立中学校卒業生数推計による 堺高校志願者予測数 ※令和6年度は実績値	216	212	210	207	204	199	199	197
増減（令和6年度数との比較）	—	▲ 4	▲ 6	▲ 9	▲ 12	▲ 17	▲ 17	▲ 19
堺高校入学者のうち堺市立中学校出身者 数推計による堺高校志願者予測数 ※令和6年度は実績値	216	213	207	200	198	187	189	185
増減（令和6年度数との比較）	—	▲ 3	▲ 9	▲ 16	▲ 18	▲ 29	▲ 27	▲ 31

大阪府教育委員会会議資料（令和6年8月）、大阪府公立高等学校連絡協議会資料、堺市調べ

10. 参考資料

■ 堺高校過去6年の卒業生の進路状況

	卒業年度	卒業生数	進学者数			就職者数	その他※1
			大学・短大	専門学校等	計		
全 日 制	令和6年度	195人	69人 (35%)	30人 (15%)	99人 (51%)	93人 (48%)	3人 (2%)
	令和5年度	195人	51人 (26%)	49人 (25%)	100人 (51%)	88人 (45%)	7人 (4%)
	令和4年度	217人	56人 (26%)	51人 (24%)	107人 (49%)	108人 (50%)	2人 (1%)
	令和3年度	218人	74人 (34%)	41人 (19%)	115人 (53%)	97人 (44%)	6人 (3%)
	令和2年度	220人	68人 (31%)	52人 (24%)	120人 (55%)	97人 (44%)	3人 (1%)
	令和元年度	218人	53人 (24%)	44人 (20%)	97人 (44%)	118人 (54%)	3人 (1%)
定 時 制	令和6年度	17人	4人 (24%)	0人 (0%)	4人 (24%)	12人 (71%)	1人 (6%)
	令和5年度	18人	2人 (11%)	0人 (0%)	2人 (11%)	16人 (89%)	0人 (0%)
	令和4年度	41人	7人 (17%)	1人 (2%)	8人 (20%)	28人 (68%)	5人 (12%)
	令和3年度	32人	2人 (6%)	4人 (13%)	6人 (19%)	23人 (72%)	3人 (9%)
	令和2年度	33人	4人 (12%)	0人 (0%)	4人 (12%)	25人 (76%)	4人 (12%)
	令和元年度	33人	0人 (0%)	5人 (15%)	5人 (15%)	24人 (73%)	4人 (12%)

(備考) ※1 進路未決等

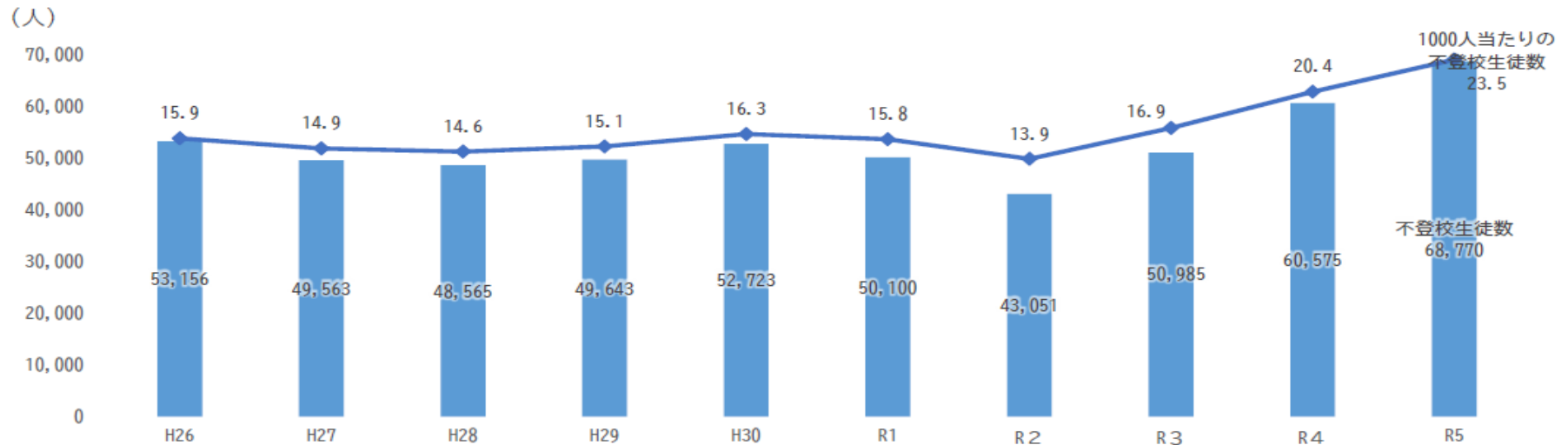
資料：堺市調べ

10. 参考資料

■ 全国の高等学校における不登校の状況

○ 高等学校における不登校生徒数は68,770人（前年度60,575人）であり、1,000人当たりの不登校生徒数は、23.5人（前年度20.4人）である。

■ 不登校生徒数の推移



● 90日以上欠席した者は、不登校生徒数の15.7%である。

区分	欠席日数30～49日の者		欠席日数50～89日の者		欠席日数90日以上で出席日数11日以上の方		欠席日数90日以上で出席日数1～10日の者		欠席日数90日以上で出席日数0日の者		不登校生徒数
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
国公立計	39,360	57.2%	18,606	27.1%	8,839	12.9%	1,407	2.0%	558	0.8%	68,770

	国公立計	不登校生徒数に対する割合
不登校生徒のうち中途退学に至った者	11,746	17.1%
不登校生徒のうち原級留置になった者	3,384	4.9%

※ 「生徒指導要録」の「出欠の記録欄」のうち、「備考」欄に、校長が出席扱いとした日数が記録されている場合は、その日数については「欠席日数」に含める。

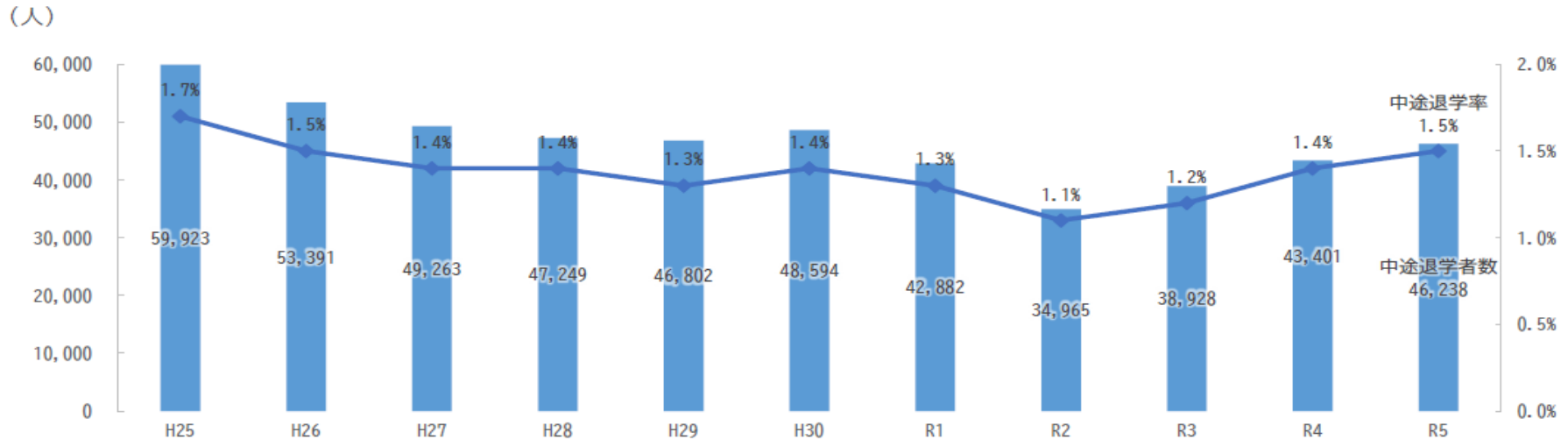
(出典) 令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について
中央教育審議会「高等学校教育の在り方ワーキンググループ審議まとめ」(令和7年2月) 資料

10. 参考資料

■ 全国の高等学校における中途退学状況について

○ 高等学校における中途退学者数は46,238人（前年度43,401人）であり、中途退学者の割合は1.5%（前年度1.4%）である。

■ 高等学校における中途退学者数及び中途退学率の推移



■ 事由別中途退学者数

※中途退学率は、在籍者数に占める中途退学者数の割合。

	学業不振	学校生活・学業不適応	進路変更	病気がけ・死亡	経済的理由	家庭の事情	問題行動等	その他
R3	2,560 6.6%	11,855 30.5%	17,219 44.2%	1,919 4.9%	532 1.4%	1,478 3.8%	954 2.5%	2,411 6.2%
R4	2,600 6.0%	14,253 32.8%	19,055 43.9%	2,107 4.9%	617 1.4%	1,424 3.3%	1,196 2.8%	2,149 5.0%
R5	3,124 6.8%	15,804 34.2%	19,087 41.3%	1,971 4.3%	567 1.2%	1,333 2.9%	1,527 3.3%	2,825 6.1%

※中途退学者1人につき、主たる理由を一つ選択したもの。

※上段：人数
下段：中途退学者に対する割合

(出典) 令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について

■ 新時代に対応した高等学校教育等の在り方

(1) 基本的な考え方

- 高等学校には様々な背景を持つ生徒が在籍していることから、生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じた学びを実現することが必要
- 高等学校における教育活動を、高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するためのものへと転換
- 社会経済の変化や令和4年度から実施される新しい高等学校学習指導要領を踏まえた高等学校の在り方の検討が必要
- 生徒が高等学校在学中に主権者の1人としての自覚を深めていく学びが求められていることを踏まえ、学びに向かう力の育成やキャリア教育の充実を図ることが必要
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を通じて再認識された高等学校の役割や価値を踏まえ、遠隔・オンラインと対面・オフラインの最適な組み合わせを検討

(2) 高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための各高等学校の特色化・魅力化

- ① 各高等学校の存在意義・社会的役割等の明確化（スクール・ミッションの再定義）
 - ・各設置者は、各学校の存在意義や期待される社会的役割、目指すべき学校像を明確化する形で再定義
- ② 各高等学校の入口から出口までの教育活動の指針の策定（スクール・ポリシーの策定）
 - ・各学校はスクール・ミッションに基づき、「育成を目指す資質・能力に関する方針」「教育課程の編成及び実施に関する方針」「入学者の受入れに関する方針」の3つの方針（スクール・ポリシー）を策定・公表
 - ・教育課程や個々の授業、入学者選抜等について組織的かつ計画な実施とともに不断の改善が必要
- ③ 「普通教育を主とする学科」の弾力化・大綱化（普通科改革）
 - ・「普通教育を主とする学科」を置く各高等学校が、各設置者の判断により、学際的な学びに重点的に取り組む学科、地域社会に関する学びに重点的に取り組む学科等を設置可能とする制度的措置
 - ・新たな学科における教育課程においては、学校設定教科・科目や総合的な探究の時間を各年次にわたって体系的に開設、国内外の関係機関との連携・協働体制の構築、コーディネーターの配置
- ④ 産業界と一体となって地域産業界を支える革新的職業人材の育成（専門学科改革）
 - ・地域の産官学が一体となり将来の地域産業界の在り方を検討、専門高校段階での人材育成の在り方を整理、それに基づく教育課程の開発・実践、教師の資質・能力の向上と施設・整備の充実
 - ・高等教育機関等と連携した先取り履修等の取組推進、3年間に限らない教育課程や高等教育機関等と連携した一貫した教育課程の開発・実施の検討
- ⑤ 新しい時代にごそ求められる総合学科における学びの推進
 - ・多様な開設科目という特徴を生かした教育活動を展開するため、教科・科目等とのつながりや2年次以降の学びとの接続を意識したカリキュラム・マネジメント、ICTの活用を伴った各高等学校のネットワーク化による他校の科目履修を単位認定する仕組みの活用、外部人材や地域資源の活用の推進
- ⑥ 高等教育機関や地域社会等の関係機関と連携・協働した高度な学びの提供
 - ・特色・魅力ある教育活動のため、地域社会や高等教育機関等の関係機関との連携・協働が必要
 - ・各学校や地域の実情に応じ、コンソーシアムという形も含めて関係機関との連携・協働をコーディネートする体制を構築
 - ・複数の高等学校が連携・協働して高度かつ多様なプログラムを開発・共有し、全国の高校生がこうした学習プログラムに参加することを可能とする取組みの促進

(3) 定時制・通信制課程における多様な学習ニーズへの対応と質保証

- ① 専門スタッフの充実や関係機関との連携強化、ICTの効果的な活用等によるきめ細やかな指導・支援
 - ・SC・SSW等の専門スタッフの充実や関係機関等との連携促進
 - ・多様な学習ニーズに応じたICTを効果的に活用した指導・評価方法の在り方等の検討
- ② 高等学校通信教育の質保証
 - ・通信教育実施計画の作成義務化、面接指導等実施施設の教育環境の基準や少人数による面接指導を基幹とすべきことの明確化、教育活動等に関する情報公開の義務化等による質保証の徹底

(4) STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成

- STEAMのAの範囲を芸術、文化のみならず、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲で定義し推進することが重要
- 文理の枠を超えて教科等横断的な視点に立って進めることが重要
- 小中学校での教科等横断的な学習や探究的な学習等を充実
- 高等学校においては総合的な探究の時間や理数探究を中心としてSTEAM教育に取り組むとともに、教科等横断的な視点で教育課程を編成し、地域や関係機関と連携・協働しつつ、生徒や地域の実態にあった探究学習を充実

(5) 高等専修学校の機能強化

- 国による教育カリキュラムの開発、地域・企業等との連携を通じた教育体制の構築支援、好事例の収集・分析・周知